

ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校 報告書

平成24年度道徳教育総合支援事業

平成25年3月

福島県教育委員会



はじめに

本報告書は、平成24年度道徳教育総合支援事業（文部科学省）の委託事業「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内6地区における小・中・高等学校7校により実践研究を行い、推進校が1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、自校での取組を次のプロットに従って報告しております。今年度は、「道徳教育全体計画の改善がどのように図られたのか、道徳教育推進教師は自校でどのような役割を果たしているのか、道徳教育における校長の指導の方針等はどのように伝えられたのか」の3つの柱を立てました。

なお、各校の全体計画、年間指導計画は、平成24年度と25年度で比較することができるようになっており、教育課程の編成を経てどのように変更されたのかが分かります。

また、1年間で取り組んだ各校の実践の特徴は、次のとおりです。

福島市立北信中学校	道徳性診断テストと教師アンケートを活用した道徳教育
平田村立蓬田中学校	魅力ある道徳授業のためのゲストティーチャー活用
矢祭町立東館小学校	心の教育推進委員会との協働と公開授業
下郷町立江川小学校	道徳教育の基盤となる学級集団づくり
県立新地高等学校	規範意識と自尊感情をはぐくむ生徒の生き方在り方教育
いわき市立田人第一小学校	学級課題と重点指導
いわき市立川部中学校	道徳性検査と保護者アンケート活用した道徳教育

【報告書のプロット】

- 1 学校概要
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成24年度 道徳教育の全体計画の特徴（1）
- 8 平成24年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴（2）
- 9 平成24年度 学級における指導の計画の特徴（3）
- 10 道徳教育推進教師等における実践レポート
- 11 道徳の時間にかかる資料
- 12 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 改訂版（1）
- 13 平成25年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴 改訂版（2）
- 14 成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
- エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ク 道徳教育における評価に関すること
（「学習指導要領解説道徳編」より）

平成24年度ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校報告書

《目次》

はじめに

1 道徳教育推進校報告

(1) 県北地区	福島市立北信中学校	1
(2) 県中地区	平田村立蓬田中学校	19
(3) 県南地区	矢祭町立東館小学校	37
(4) 会津・南会津地区	下郷町立江川小学校	55
(5) 相双地区	県立新地高等学校	73
(6) いわき地区	いわき市立田人第一小学校	91
	いわき市立川部中学校	109

2 資料

- 地域に根ざした推進校へ！

道徳教育地区別推進協議会に係る道徳教育推進校の役割について

- 平成24年度道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」

【県北地区】 福島市立北信中学校



推進校紹介

学 校 名	福島県福島市立北信中学校																																									
所 在 地	福島県福島市鎌田字御仮家20番地																																									
学 校 長 名	吉 川 博																																									
学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力を身につける生徒 ○ 豊かな心を身につける生徒 ○ たくましい活力を身につける生徒 																																									
学級及び生徒数 (平成24年5月1日現在)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">学年</th> <th colspan="2">通常学級</th> <th colspan="4">特別支援学級</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">生徒数</th> <th rowspan="2">学級数</th> <th colspan="2">知的障がい</th> <th colspan="2">情緒障がい</th> </tr> <tr> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> <th>生徒数</th> <th>学級数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>294</td> <td>10</td> <td>1</td> <td rowspan="3">1</td> <td>1</td> <td rowspan="3">1</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>272</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>265</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>831</td> <td>26</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	学年	通常学級		特別支援学級				生徒数	学級数	知的障がい		情緒障がい		生徒数	学級数	生徒数	学級数	1年	294	10	1	1	1	1	2年	272	8	1	2	3年	265	8	1	—	計	831	26	3	1	3	1
学年	通常学級		特別支援学級																																							
	生徒数		学級数	知的障がい		情緒障がい																																				
		生徒数		学級数	生徒数	学級数																																				
1年	294	10	1	1	1	1																																				
2年	272	8	1		2																																					
3年	265	8	1		—																																					
計	831	26	3	1	3	1																																				
道徳教育にかかる 取組みの概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 努力目標の設定にあたって 教育目標「豊かな心を身につける生徒」の達成のための努力目標を、「心の教育の一層の充実を図り、豊かな人間性・社会性の育成に努める。」とした。 2 教育課程編成・実施にあたって <ol style="list-style-type: none"> (1) 生命尊重や思いやりの心を育てる機会と場の意図的な設定 (2) 総合的な学習の時間との関連づけ ボランティア活動や体験的な学習を通して生徒の内面に根ざした道徳性や規範意識を向上させる。 併せて、教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を深められるようにする。 (3) 年間指導計画の改善と授業時数の確保 学校教育全体で行う道徳教育の要となる道徳の時間の年間指導計画を改善し、授業時数の確保に努める。 3 道徳教育に取り組む組織、授業実践などについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 現職教育委員会に、道徳教育推進教師を配置する。 (2) 現職教育の研究主題を道徳教育に関するものとする。 (3) 研究授業の実践は、全教師で取り組むものとする。 (4) 生徒の実態を客観的に把握し、研究的に授業を実施する。 4 福島市で取り組む幼・保・小・中連携事業の推進にあたって 教科等部会の中に、道徳部会を設定し、小・中が連携した道徳教育に取り組む一助とすることとする。 																																									

1 研究テーマ

研究主題	生徒一人一人の内面的自覚を深め、道徳的実践力を身につける道徳の授業はどうあればよいか
副主題	資料の選択・分析と効果的な導入のあり方

2 テーマ設定の理由

- (1) 新学習指導要領（平成20年3月告示）の全面実施にあたって
平成24年度は新学習指導要領全面実施初年度にあたる。この学習指導要領においても、生きる力の理念は継承され、それを構成する柱のひとつは「豊かな人間性」であり、学校の道徳教育を今まで以上に重視するものとなっている。
- (2) 新学習指導要領の4つの改善点から
① 指導内容の重点化（「主体的に社会の形成に参画すること」）
② 生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発と活用
③ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
④ 道徳の時間の授業公開、家庭や地域社会との共通理解・相互連携
- (3) 東日本大震災、原発事故に伴う教育活動の停滞から
被災した体育館修理期間（平23.4～10月の約6ヶ月）に全校集会、学年集会ができなかったことに伴い、集団の規律に関する意識、規範意識の欠如がみられた。
- (4) 平成23年度の学校評価結果、教師のアンケートの結果から
① 「道徳の授業の充実に関して」の学校評価（4段階評価）から （ ）内は平成22年度

評価者	1 学 期	2 学 期	
教 員	2. 8 3 (2. 6 4)	2. 6 3 (2. 6 1)	4：ほぼ課題解決 3：解決の方向へ 2：要努力 1：意識不足 0：よくわからない
保護者	—	2. 7 2 (3. 0 4)	

② 具体的な課題

- 道徳の時間の授業時数が十分確保されず、指導が不十分である。
- 道徳の時間については指導が形式化して、実効があがらない。
- 学年に応じた道徳教育の重点が見えにくい。
- 教育活動全体と道徳の時間の相互関連が十分でない。

以上の4点と後述する生徒の実態から、テーマを設定した。

3 研究計画

月	研究協議会	地区別道徳教育推進協議会	県中教研道徳部会
4	今年度の研究主題・計画 教科部会（組織編成など） 新道徳性検査の実施	授業者・指導案の検討 （～9月）	授業者・指導案の検討 （～10月）
5		道徳講演会（前福島市教育実践センター所長 佐藤吉郎先生）	
6	生徒の実態～教科経営計画作成 （新道徳性検査、NRT検査結果）	指導案の検討～事前授業（～9月） 小・中連携事業に伴う、小学校教員への道徳の授業公開	
7		市教育実践センター招聘 東京学芸大学教授 永田繁雄先生講演ビデオ視聴会	
8・9	1学期授業実践の振り返り、 重点実践の確認	1～3年道徳の授業公開	県大会に向けた指導案完成 事前授業の実施
10			中教研県大会の準備・当日
11	学校評価の実施、結果確認 新道徳性検査の実施（抽出学級）		県大会の反省のまとめ
12	教育課程編成準備開始		次期開催地引継事項の検討
1	・今年度の成果と課題のまとめ ・教職員研究物の出品 ・道徳教育推進協議会の実施報告書作成・提出 ・次年度の道徳教育全体計画、年間指導計画の見直し・作成（～3月）		
2	次年度学校経営ビジョンの確認、教育課程実施届の作成		
3	次年度の研究主題・計画案作成		

4 生徒の実態及び地域の課題

(1) 生徒の実態

- ① 自制心や規範意識の希薄化（道徳性検査「HUMAN III」、道徳意識調査から）
- ② 生活習慣の確立が不十分（平成23年度「学校保健だより」等から）

(2) 地域の実態

- ① 位置 福島市信夫山の北部に位置し、飯坂温泉が近く、伊達市に隣接している。
- ② 地域 奥州街道の宿場町とした栄えた瀬上・鎌田地区
果樹栽培の盛んな余目地区
商業施設の多い矢野目地区 } 4地区から成り立っている。
- ③ 学区 瀬上・鎌田・余目・矢野目小学校を抱え、837名中505名が自転車通学となる広い学区である。

5 道徳教育における学校長の指導の方針

（資料1）

- (1) 各領域と密接な関連を図りながら、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践と関連を十分図りながら道徳的実践力の育成を図る。
- (2) 教師と生徒、生徒相互の人間関係を一層深め、総合的な学習の時間との関連を図りながら、ボランティア活動など豊かな体験の場の確保に配慮する。
- (3) 心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成をめざし、発達段階に応じて、規律ある生活態度の確立、自他の生命の尊重、思いやる心の指導に重点をおく。
- (4) 本校の道徳教育全体計画を常に見直して改善・実施するとともに、道徳の時間の確保に努め、多様な授業形態を取り入れる。

6 平成24年度 道徳教育全体計画の特徴

（資料2）

- (1) 前年度の学校評価、指導の成果と課題や学校経営ビジョンを踏まえたものとした。
- (2) 教育目標 ～ 道徳教育の重点目標 ～ 学年別指導の重点目標 ～ 道徳の時間の指導方針 ～ 各教科・特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導・進路指導まで、一環した指導ができるようにした。

7 平成24年度 道徳の時間の年間指導計画の特徴

（資料3）

- (1) 道徳の時間の指導の重点を全学年共通とし、指導の一貫性を保てるようにした。
- (2) 平成23年3月11日の東日本大震災に伴う教育活動の制限、各学年生徒の実態、本校の教育課題などを踏まえ、4つの価値項目のうち、何に重点化を図ったかを明確に示した。

8 平成24年度 学級における指導の計画の特徴

（資料4）

- (1) 学年共通の道徳年間指導計画をもとに、学級、生徒の実態を踏まえて指導ができるよう配慮した。
- (2) 生徒の実態を具体的に記述することによって、共通の年間指導計画を柔軟に取り扱えるように配慮した。
- (3) 指導にあたっては、次の点を配慮する。
 - ① 生徒の実態を把握・踏まえ、教師の願い、想いを含めて資料の選択・分析をする。
 - ② 問題の意識化や中心価値の方向づけ、焦点化を図る効果的な導入に努める。
 - ・資料分析、中心発問の検討
 - ・視覚的教材の活用、実態調査結果や他教科との関連を図った導入の工夫
 - ③ 内面的自覚を図る振り返りの時間の設定

9 道徳教育推進教師等における実践レポート

本校は今年度中教研道徳県大会発表校として、現職教育主任と協力し、全校が一丸となって道徳教育を推進してきた。クラス担任による最低1回の授業公開を義務づけ、小・中連続授業公開においては、3学年の全クラスが道徳の授業を公開した。

また、授業時数の管理面から、教務主任と連携し、全クラスの道徳の授業時間を同じ時間に一斉に取り、年間35時間の授業時数を確実に確保した。

研究においては、学習指導要領で求める力を分析するため、道徳推進教師と道徳に造詣の深い教員（3名 計4名）が全国レベルの研修に参加し、それを現職教育部で共有し、先生方に広めることを行ってきた。

研究の出発点を本校の生徒、教員の実態をとらえることとし、それらを改善していくことを研究の主眼とした。

その上で、「価値の方向付けや問題の意識化」という導入部分と、「価値の追求や自己の振り返り」のための資料の選択、効果的な終末を柱として、研究を進めた。

そこで、授業の中で大切となる資料について、「生徒の実態に応じた資料」の選択・分析に焦点をあて、先生方に資料分析の方法などについて提案し、研修を深めることを通じ、授業を構想する際に役立てることができた。

また、「効果的な導入」のために「問題の意識化」「価値の方向付け」「資料の方向付け」を柱とし、実践を積み重ねた。

さらに、展開後段で重要になる「自己の振り返り」の方法について、先行研究や文献などから効果的な事例を取り入れ、実践してきた。

各研修で報告し、大変好評を得た、先生方自作のDVDを終末に活用した。授業の中の価値項目をさらに深めたり、継続していこうという意欲につながったこと等が生徒たちの声からうかがえ、効果の大きさを検証することができた。

10 道徳の時間にかかる資料

(資料5)

11 平成25年度 道徳教育の全体計画の特徴 改訂版(1)

(資料6)

- ・ 「道徳意識調査」によってとらえた生徒の実態を表記
- ・ 道徳教育の重点事項を整理
- ・ 道徳の時間の指導方針に今年度の研究の視点を加味

12 平成25年度 道徳の年間指導計画の特徴 改訂版(2)

(資料7)

教育課程編成の際、中学校ではどうしても教科主任等を中心とする年間計画の作成となってしまう傾向がある。そこでは、もちろん各主任が中心となって行事等との調整を図って時間配当などを決めてはいるが、それが一斉に行われることがなかった。そこで、行事、総合的な学習の時間、道徳、学級活動の月内における横断的な指導を図るため、学年主任を中心とし、行事と総合的な学習の時間、道徳、学級活動を連動して見直すこととした(平成25年度分については、行事が動く可能性がまだあるので、現時点での予定)。

13 成果と課題

I 研究の成果

(1) 生徒の実態に基づく資料の選択と分析

① 資料選択

- 文部科学省の資料集や教科書会社の副読本をそろえたことで、豊富な資料の中から生徒の実態に適合しているかどうか、道徳的価値がどのように含まれているかといっ

た観点から資料を選択することができた。

- 教師が多く資料から選択できたことは、今までの授業実践や「生徒の意識調査」の「1 道徳の時間の勉強は好きだ」の項目が上昇していることから裏付けられる。

② 資料分析の一例

【資料名】 『奇跡の一週間』			
【出典名】 中学道徳2『明日をひらく』（東京書籍）			
登場人物		私(甲斐裕美さん), 北村春男さん, 甲斐さんの母親	
主要場面	場面ごとの気持ちの変化	道徳的価値	主な発問
<p>【ホスピスでボランティアをしていてよくされる質問の答え】</p> <p>ホスピスの患者さんに対する思いが北村さんとの出会いによって変化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あたりまえでしょ。悲しくないわけじゃない。→「北村さんとの出会い」大きなまちが이었다。(ホスピスの患者さんへの認識の変化) 	3-(1) 生命の尊重	○ ホスピスの患者さんに対する甲斐さんの気持ちの変化について考えよう。
<p>【童話『うろこ雲』の挿絵の依頼】</p> <p>パソコンソフトを使って描いた北村さんの絵のファンになり、童話の挿絵の依頼をした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北村さんの絵に一目でファンになる。 ・ 自分の童話の挿絵をお願いするが、体力が低下していく北村さんの姿に、依頼したことを後悔する。 	3-(1) 生命の尊重	
<p>【北村さんの真剣さに打たれ、真剣に注文をつける私】</p> <p>北村さんの思いに応えようと、真剣になって注文をつけることにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北村さんの思いに応えよう。 ・ まさか新しい作品を20点近く仕上げるなんて。こちらも真剣に向き合わなければ、北村さんに失礼だ。 	3-(3) 人間の強さと気高さ、生きる喜び	○ 北村さんが亡くなるまでの一週間が奇跡といえるのはなぜか。
<p>【亡くなるまでの奇跡の一週間】</p> <p>まるで自分の体からあふれてくるものを、一生懸命両手ですくおうとしているようだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神的になんて強い人なのだろう。 ・ 北村さんのパワーと奇跡を信じる。 ・ 「静かにかがやいた目」から、一生懸命描くことで、満足感、充実感が感じとれる。 	3-(1) 生命の尊重	○ 「自分の体からあふれてくるもの」とは何だろう。
【価値項目】 3-(1)生命の尊重			

(2) 効果的な導入

- ① 事前のアンケート調査等の資料の提示
- ② 資料に関する絵画や写真, VTR, DVDなどを用いた視覚的な印象づけ
- ③ 主題のねらいにかかわる新聞記事, 生徒作文, 詩や短歌の提示
 - 数十回の授業研究会を実施していく中で、生徒の実態やねらい、資料に適したさまざまな導入を検討し、授業に生かすことができた。
 - 効果的な導入は、生徒の問題意識を高め、道徳的価値への方向付けをするだけでなく、中心発問や振り返りまで一貫した授業展開ができることが分かった。

(3) 生徒の変容（道徳の時間を肯定的にとらえる生徒の増加）

- 「道徳の時間の勉強は好きだ。」については、60%以上、「道徳の時間の勉強はためになると思う。」については、実に80%以上の生徒が肯定的にとらえ方をした。

資料の選択・分析，導入のしかたの工夫が生徒の情意面上昇につながったものと読み取れる。

- 「他の人の考えを聞きながら自分のことについてよく考える」という質問についても，約70%の生徒が友だちの考えをよく聴いている。これは，授業の展開前段で，登場人物の行為について考え，班活動や席の形態を工夫したことで，友だち同士積極的に話し合っただけで価値の追求をしたことの表れである。それが展開後段で資料から離れて中心価値と照らし合わせてこれまでの自分を振り返り，さらには内面的自覚へとつなげることができた。

(4) 教師の変容（道徳の授業に積極的に取り組む教師の増加）

先生方の意識調査から，「道徳の授業」を積極的に取り組んだ教師は，
35% → 65%

と約2倍に上昇した。大きな理由としては，「他の先生の道徳の授業を観る機会ができ，とても役だった。」があげられた。

一般に，教科の授業と違って道徳の授業は，学校全体が同じコマに設定している場合が多い。したがって，教員同士道徳の授業を観る機会がほとんどない。

今年度は，「生徒一人一人の内面的自覚を深め，道徳的実践力を身につける道徳の授業はどうあればよいか」という研修主題のもと，研修主任，道徳推進教師が中心となっ組織的・計画的に研究を進めてきた。また，道徳の授業研究会でお互いの授業を観るだけでなく，日ごろから情報交換をしたり，学び合ったりしたことが協力しながら取り組むことができた。

先生方の声として，

- 道徳の授業に対する私たちの意識が変わった。(5名)
- 自分自身の道徳の授業に対する基礎が固まった。(4名)
- 道徳の授業を「おもしろい」と感じることができた。(3名)
- 資料の大切さや分析・吟味の必要性について痛感した。(2名)
- 生徒の変容が見られた。(2名)

も聞かれ，大きな成果となった。

II 今後の課題

(1) 生徒の変容から

道徳的心情と道徳的判断力の側面では，道徳的心情が1回目よりもIの回答が少ない傾向にある。また，先生方の学校評価から，規範意識と自律心，思いやりの心がまだ十分に育っていないことがあげられた。今後は，それらの道徳的心情に指導の重点を置き，共感的・感動的な資料を選定し，道徳的な心情を高めるような指導を工夫する必要がある。

(2) 課題解決のために

① 道徳全体計画の見直し

HUMANⅢの「本校のすがた」から，特に視点4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」が4月と比較して望ましくない傾向にある。そこを次年度の本校の重点目標に挙げて取り組む必要がある。

② 道徳，各教科，総合的な学習の時間，学校行事等と関連させた横断的な指導

HUMANⅢの「本校のすがた」，「各学年の項目別集計表」が参考になる。

各教科で扱う内容や教材を道徳の時間に活用したり，道徳での学習内容を教科の時間に生かしたりすることで，生徒の道徳性をさらに深めていく必要がある。主題の配列に当たっては，生徒の実態をふまえ，「道徳的実践力」をさらに高めるため，道徳，学級活動，総合的な学習の時間，行事を十分に考慮していくことが大切である。

(3) 授業実践の工夫

① 道徳的価値の明確化と具体的発問の準備

道徳の授業は50分なので，本時のねらいからぶれないことが必要である。道徳的価値への方向付けをいかに端的に行うか，価値の追求のしかた，発問構成を工夫して

いかなければならない。そのためには、資料の中の道徳的価値を明確にし、具体的に何を考えさせるのか、その考えを深める具体的な発問をあらかじめ準備しておく必要がある。

② 考えを深める交流の場の工夫

生徒の意見交流を活発にさせるには、話し合いの中で生徒のさまざまな意見を教師が整理し、自分の考えとの違いに気づけるようにすることが大切である。生徒同士が顔を見て話し合うことができるような座席の配置やロールプレイング等の指導の手法などを含めた授業形態を工夫し、生徒が生き生きと活動しさらに自分の考えを深められる場面を設定していくことが必要である。

③ 実態把握と学びの累積

「道徳的実践力」をどのようにして「道徳的実践」につなげていくか、生徒の変容をどのように把握するかについて適切にとらえることが求められている。可能な限り生徒の心の変容をさまざまな方法でとらえ、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくことが大切である。また、生徒が書いたものはファイルなどすることによって、自分自身の考え方の変化を振り返り成長を実感したりするなど、有効に活用することができる。

※ <研究を進める上での校内における課題>

① 教育環境整備について

- ・ 破損した施設の修理を市教委に要望書を提出し、進捗状況を問い合わせながら、その実現を図る。
- ・ 教室環境の整備と掲示教育の充実により、より望ましい心豊かな生徒の育成を図る。

② 小・中接続事業の充実について

今年度北信中学区の小・中接続推進事業の組織の一つである「教科等部会」に「道徳」を設置した。その中での協議を深めながら、小中の「道徳」の授業公開などをおして、小中が共通して目指す子ども像「北信の子五つのやくそく」にせまりたい。

③ 道徳教育の充実を図る外部講師の招聘

道徳的心情をはぐくむために、望ましい講師を選ぶとともに、PTAの理解を得ながら予算を確保し、外部講師を継続的に招聘する。